

【創立 65 周年記念事業】久能祐子博士講演会が開催されました

2 月 24 日、ワシントン日本語学校に [S&R EVERMAY 財団](#) より久能祐子博士をお招きし、「跳ぶように考え、這うように証明する！」と題して講演会が開催されました。本講演は創立 65 周年記念事業「未来を創れ！」の一環として行われたものです。

久能博士は基礎科学研究からバイオテック起業後、二度の新薬創出の成功を収められ、近年は社会起業家として若手起業家、芸術家や研究者の支援・育成事業を日米で行われています。講演会には特別授業として高校生が参加、会場の 4 階図書室には多くの保護者が集まり盛況な会となりました。



久能祐子博士



講演会では、まず久能博士のこれまでの「履歴」を紹介していただき、バイオテック起業後、新薬創出までの道のりが資金調達など必ずしも平坦な道ではなかったこと、一方でそのような「リスク」をとったことに対して「自己効力感」をキーワードに当時を振り返り、イノベーションの「山」が見えていた、と興味深い裏話をお話ししてくださいました。イノベーションを登山に例えられ、インベンション（発明・発見）からイノベーション（技術・社会革新）までの道のりのイメージを分かりやすく共有していただき、イノベーションを生み出すための条件、リスクテイク、失敗についての考え方を説明してくださいました。また近年取り組まれてきた社会起業家としての活動事例として、社会的インパクトを生むビジネスエコシステムについてご自身で立ち上げたソーシャルインキュベーターを例に、21 世紀型ビジネスモデル（利益＋インパクト）、日本型エコシステム、女性起業家への投資支援をご紹介いただきました。

本校は教育目標としてグローバル人材の育成を掲げています。久能博士は今後 30 年で人類と地球のパラダイムシフトが起こると予見、競争社会からオリジナリティや多様なインパクトを目指す非競争の社会になるという大変興味深いお考えをご紹介くださいました。またそのような 21 世紀の新しい社会を担うリーダー像として、価値観を共有する力のほか、モデルや過去（成功も失敗も）に捕われない柔軟性などを提言されました。最後に高校生と保護者に向け「将来のことは誰にもわからない！」「世界は広い、人生は長い」「Think Big, Step Small！」とのメッセージで締め括られ、多くの成功体験をなされた今でもオープンで柔軟な姿勢を持ち、未来志向である久能博士の人間的な魅力が伝わる講演会となりました。講演会で使用されたプレゼンテーション資料は、本校ウェブサイト保護者ページ＞ 家庭学習を応援（要パスワード）＞ 保護者向け講演会資料一覧 にアップロードされていますので、ぜひご覧ください。



質疑応答時には、高校生からの質問にも真剣に耳を傾けていただき「何かをやりたい時は周りに自分と同じ意見の人を見つける」、「自分の可能性の限界を自分で決めない」、「リスクの感覚は自分と他人で違う、自己効力感を信じる」など一人一人の質問に丁寧にご回答をいただきました。講演会后、管理運営委員会に届いた感想の一部をご紹介します。

自己効力感、ビジョンとはゴールから見えるものという言葉が印象に残りました。（小 5 保護者）

自らのキャリアパスに基づく助言が印象的でした。従来のような積み上げ型の人生設計よりも、ジグソーパズルのようにその時々で柔軟に組み合わせていく人生設計が相応しいと感じました。（小 3 保護者）